



一般社団法人
日本循環器学会



国立循環器病研究センター

各位

令和2年12月18日
国立循環器病研究センター
日本循環器学会

急性大動脈解離の診療の質を評価する指標を世界で初めて開発しました

急性大動脈解離は、突然発症し死亡率の非常に高い救急疾患（院内死亡率 25-30%）であり、高齢化に伴い発症頻度の増加を認めます。その高い死亡率を低下させるためには質の高い医療の提供が必要ですが、急性大動脈解離の診療において、その質を評価するための指数（Quality Indicator: 以下 QI）は、世界的にも確立されたものではありませんでした。今回、専門家による討議を経て新たに QI を作成し、そのうちの 9 項目の QI を用い、日本循環器学会の循環器疾患診療実態調査（JROAD）データベースに登録された約 18,000 例の急性大動脈解離患者さんの診療データを解析し、高い QI の達成率が院内死亡率の低下につながることを明らかにしました。なお、本研究成果は、令和2年11月29日に European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 誌に掲載されました。

QIの達成率と院内死亡の関係 (A型解離とB型解離 数値はオッズ比)



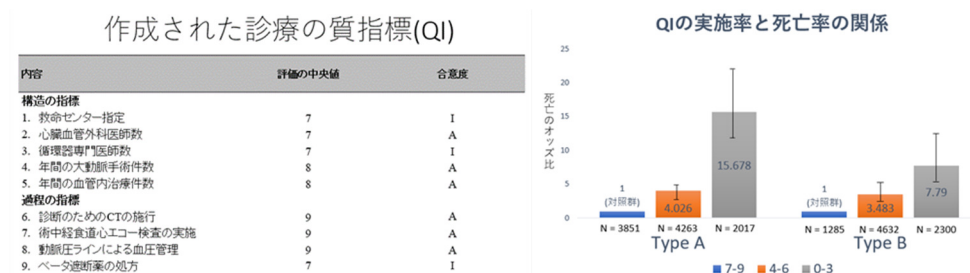
※オッズ比は QI の達成率と院内死亡率との関係を表す数値で、1 を下回る場合、高い QI の達成率と院内死亡率の低下が相関することを意味します。

1. 研究方法について

15名の専門家による討議を行い、急性大動脈解離に対する診療QIを作成しました。次に、JROAD内の2012年4月から2015年3月までに急性大動脈解離で入院した18348例（A型：10131、B型：8217）のデータを解析し、診療QI達成率と院内死亡率の関係を検討しました。

2. 主な研究結果について

左図のように、構造指標5項目と過程指標4項目、合計9項目のQIを用いて評価しました。右図の通り、それら9つのQIが高い達成率の施設は院内死亡が少ないという事が統計学的に示されました。この傾向は急性大動脈解離の病型（A型・B型）を問わず、また24時間以内に死亡した症例を除いた検討においても同様でした。



3. 考察と今後の展望

今回作成した急性大動脈解離の診療QIは世界的にも初めての試みでした。また、これを用いたQI達成率と低い院内死亡率が相関することが示され、今回作成したQIを用いた診療の質的評価の意義が明らかとなりました。今後は、地域ごとや個々の医療機関の診療内容について、診療QIを用いた診療の質的評価とそのフィードバックを通して、診療の質の向上と均てん化、およびエビデンスー診療ギャップの改善につながることが期待できます。

4. 研究助成

本研究は、日本医療研究開発機構（AMED）による2017-19年度循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業のうち、「急性大動脈解離のEvidence Practice Gapの可視化を行うための指標の作成と測定に関する研究（17ek0210086h0001）」として実施されました。

5. 発表論文

著者：山口徹雄・中井陸運・住田陽子・宮本恵宏・松田 均・井上陽介・吉野秀朗・大北 裕・

湊谷謙司・上田裕一・荻野 均

タイトル: Impact of structural and process quality indicators on the outcomes of acute aortic dissection

雑誌: European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 2020;58:1281-1288.

6. お問い合わせ先

東京医科大学心臓血管外科分野 主任教授 荻野 均

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6－7－1

Tel: 03-3351-6111 (代表)

E-mail: hogino@tokyo-med.ac.jp